

注意事項

- ① 本大会は平成 30 年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、大会運営規則、公認審判員規程により行います。
- ② 新ルールに伴う、種々の変更について
(ショートゲームは学校対抗の部、およびⅡ部のベスト 8 決定まで) ←前回までと同じ

大阪高体連バドミントン部公式戦でのショートゲームは、次のようにします。

男女・単複にかかわらず、

1. 15 点 3 ゲームのラリーポイント制。
2. 14 点オールになったら、2 点差がつくまで延長ゲームを行う。
3. 20 点オールになったら、次に 21 点を取ったサイドがそのゲームの勝者となる
4. 3 ゲーム目は最初に 8 点が入ったとき、チェンジエズをおこなう。
5. 1 ゲーム目と 2 ゲーム目、2 ゲーム目と 3 ゲーム目の間には 60 秒を超えないインターバルを認める。このとき、2 名以内のコーチの立ち入りを認める。20 秒前にはコートに入り、コーチはコートから去ること
6. 各ゲームで最初に 8 点が入ったとき、必要ならば汗ふき・ドリンク程度のインターバルを認める。ただしこのときは、コーチの立ち入りは認めない。
7. コーチングについては、BIRD、およびホームページの記載を熟読ください。

また、言うまでもありませんが、線審は審判であってコーチではありませんので、一切のアドバイスは認められません。もっと言えば、試合が終了するまでプレーヤーと接触(話など)をしてはいけません。

また、正式ゲームは、以下の点に特に注意してください。

1. ドリンク、汗ふきは極力インターバル時に行い、それ以外はマッチの進行に支障がある場合のみとしてください。
2. インプレー時以外のコーチについては、コート後方等に設置した椅子に着席した状態で行ってください。立ち歩き等は認めません。また、くれぐれも試合の進行を妨げないようにしてください。妨げた場合は本部(レフェリー)の指示で退場になることがあります。
3. 着替えが必要なとき(特に女子)は、インターバルの時間は考慮します。(着替え場所が遠い場合等)。かならず「着替えるので少し遅れるかもしれない」旨を、主審に申し出てください。

新ルールにともない、お願い

審判をするとき、全試合で時計が必要になります。高体連バドミントン専門部でも用意をしておりますが、故障等で足りないときがありますので、**審判をする人は、極力、「秒が計れる時計(ストップウォッチ、タイマー)」を持参するようにしてください。**

- ③ 競技予定時刻の 30 分前には試合のできる状態で待機しておくこと。
試合の進行は原則としてコート番号を優先し、タイムテーブルを目安に行います。点呼をとりませんので、各コートの進行状況(何番の試合が行われているか)と本部からのアナウンスに注意して行動して下さい。タイムテーブルの予定時刻を大きく過ぎてもコートに入らない場合は棄権とみなします。
- ④ 本大会のⅠ部の成績によって 2018 年度近畿高等学校バドミントン選手権大会に推薦します。
推薦校 個人の部 単 男女とも 12 名、複 男女とも 12 組
- ⑤ 服装は、襟付き白単一色とし、ソックスは短いものとします。(ハイソックスは認めません)。色つきの服装をする場合、(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。
上着の背には規定のネームをつけること。(BIRD 参照)つけていない時は棄権とみなします。
背面表示は上衣の地色に映える色で行ってください。
- ⑥ 主審は、敗者審判とします。従って、試合の敗者は次の試合(自分が試合をしたコート)の主審となるので、ジャッジペーパーと使用したシャトルを持ってすぐ本部席へ来ること。本部席で次の試合のジャッジペーパーとシャトルを受け取り、選手名と服装・ネームを確認後、公正かつ明瞭に審判をすること。
(学校対抗の部では相互審判とするので、適宜、主審・線審を決めて下さい)

- ⑦ 各日の試合の2段目の選手は最初の段の審判をお願いします。放送に注意すること。
- ⑧ 棄権がある場合は早い目に本部席に届けること。事前にわかっている場合は、HPから登録してください。
(府の統合ICTからは操作できません。)
- ⑨ 忘れものは、HPに登録してもらえれば、わかるものは連絡します。
(府の統合ICTからは操作できません。)

- ◎ 申し込みと試合期日にかなりの間隔がありますが、申し込み後の個人戦の選手変更、代理出場は認めません。違反が発覚した場合は、その時からその学校の6ヶ月間の公式戦出場を停止します。
- ◎ 会場には顧問の先生の付き添いをお願いします。
- ◎ ゴミは極力持って帰ってください。

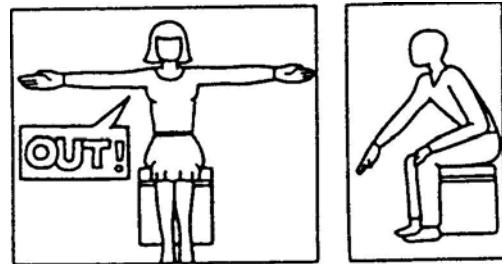
審判上の注意

<主審>

- ・個人戦では敗者審判制とします。(しっかりと審判できること)
- ・審判用紙・シャトルを本部より受け取り氏名・学校名・服装・背面ネームの有無を確認し同時にネットの高さ、ネットの両サイドのひもがボールに結ばれているかを点検する。
- ・審判は公正に選手・観戦者によくわかるように行うこと。
- ・個人戦の試合終了後は、勝者にサインをもらい、次の主審(敗者)に審判用紙 シャトルを渡す。

<線審> ※起立して試合を待つ必要はありません。

- ・ジェスチャーを正しく示す。
- ・「イン」……無言で片手をラインに指し示す。
- ・「アウト」……両腕を水平に開き合図する。
この時「アウト」と大きな声でコールする。
- ・イン・アウトの判断は自信を持って示す。
- ・姿勢正しく座る。



<審判用紙のつけ方> 次ページを参考にしてください。

- ・審判 主審名を記入する。
- ・勝者署名 試合の勝者が得点を確認の上、記入する。

高体連マークの由来

このマークは、全国高体連が発足して、間もなく作成されたものであって、若人の力と技と明朗な精神を表徴するものである。

競技は力であり、進歩は技の錬磨に待つ、競技者はこれを包むに明朗な精神を持ってせねばならない。

高体連のマークを構成している三つのKは紅色によって浮き出され、若人の情熱を示すようなドイツ語の頭文字をとったものである。

力 KRAFT 技 KUNST

明朗な精神 KLARHEIT

このマークは、高体連旗となって、全国大会はもちろんのこと、高体連の主権による大会の会場で必ず見かけることと思う。



[使用体育館]

大阪府立臨海スポーツセンター

大阪府立門真スポーツセンター (東和薬品 RACTAB ドーム)

大阪市立千島体育館

大阪市立東淀川体育館

東大阪大学柏原高校

<最寄り駅>

高師浜 (南海高師浜線)

門真南 (大阪メトロ鶴見緑地線)

大正 (JR環状線、大阪メトロ鶴見緑地線)

新大阪 (JR東海道線、大阪メトロ御堂筋線)

志紀または柏原 (JR大和路線)

<電話番号>

072-268-8351

06-6553-7800

06-6321-0003

